

落花生に発生する病害虫

品質のよい落花生を生産するためには、発生する病害虫を正確に診断することが大切です。健全な種子を使用するとともに、適切な防除を心掛けましょう。

褐斑病

周囲が黄色になる病斑



葉・葉柄・茎に発生する。6月中下旬から黄褐色の小斑点を生じ、後に1～10mmの円形暗褐色となる。病斑の周囲に黄色の環ができるのが特徴。発病が激しいと落葉する。

黒渋病

暗黒褐色の病斑



葉・葉柄・茎に発生する。8月頃から黒褐色の小斑点を生じ、後に3～5mmの円形暗黒褐色斑点となる。発病が激しいと落葉する。

汚斑病

輪郭が不鮮明な病斑



8月頃から発生し、9月中旬頃から急激に病勢が進展する。はじめは葉の表面に赤褐色の小斑点ができ、次第に拡大して直径1cm以上の輪郭が不鮮明な暗褐色の病斑となる。発病が激しいと落葉する。

白絹病

株元に絹糸状のカビ



7～8月に茎葉がしおれ、やがて枯死する。株元は暗褐色になり、白色絹糸状の菌糸がまとわりつき、粟粒状の菌核が着生している。

そうか病

かさぶた状の病斑



葉では淡褐色の小斑点が隆起して、1～2mmのかさぶた状の病斑となり、多発すると葉が巻いて萎縮する。茎・葉柄・子房柄・莢では2～5mmの褐色のかさぶた状の病斑ができる。子房柄が侵されると莢つきが妨げられ、子実の充実が不良となる。

斑紋病

斑紋症状やえそ斑



葉に不規則な濃緑の斑紋やモザイク症状を生じる。茶褐色で不規則なえそ斑を生じることもある。種子伝染する病害で、アブラムシによって伝搬される。

ネコブセンチュウ類



は種1～2か月後に、ほ場の一部が坪状に生育不良で黄化する。根には、根粒と異なる扁平な根こぶが付いている。被害株の生育は不良で着莢が少なくなる。

コガネムシ類



8月頃から株全体が急激に萎ちようして枯死する。被害株は幼虫によって根と莢が食い荒らされていて、多発すると減収となる。